



# ききょうだより

山県市立  
美山小学校  
第 11 号  
令和 2 年  
1 月 28 日

＝＝＝教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』＝＝＝

記録的な暖冬が続いています。10年程前、PTA予算で家庭用除雪機の購入を真剣に考えたことがうそのようです。3学期は、4月の進級に向けて身に付けるべき力を児童と共に確認し、その実現のための取組を継続する学期です。どの学級も「ききょうの会」に向けて自分たちの成長を確認し、2月末の授業参観ではその成果を見せられるよう努力しています。ご期待下さい。

## いじめはなぜなくなる？ その2

前号では、「いじめは見えにくい」という話をしました。今回は、いじめを見ている子について考えてみることにします。

### ②いじめられてる子にとって、見ているだけの子もいじめる子と同じ

いじめはただでさえ見えにくいので、加害者も見えにくいものです。公の場で、大声でバカにしたり、いやがらせをしたりすれば分かりますが、多くの場合そうではありません。目立たない状況でなされるのが圧倒的です。はじめは「いじめる子」がごく少数であっても、その子が学級等の集団の中でこわい子であると、まわりの関係ない子まで同調するようになります。同調の仕方は、悪口やいやがらせ等の積極的なやり方でなく、無視等一見ソフトに見えるやり方が多いものです。心の中では、「いじめはダメ」と分かっているけど、いじめている子がこわいので何も言えません。

しかし、いじめの被害者は、いじめを見ていて(知っていて)何も言わない子は、いじめてる子と同じように、自分を避けていると感じます。人は自分以外の人間の心の中は分かりません。言ったりやったりする、つまり言動でその人がどう思っているか想像するだけです。夫婦や兄弟でも基本的には同じです。思っていることを言葉にする事で自分の思いを伝えられるのです。無視している子が、「〇〇ちゃんごめんね」といくら思っても、無視されている子には届きません。そして、いじめられている子が本当につらいのは、積極的にいじめる少数の子より、同調してしまう多数の存在です。昨日まで仲良く話してた子に突然無視されたら誰でも心が痛みます。簡単なようですが、このことを心から理解することはものすごく難しいことなのです。誰でも、その立場にならないとその子の気持ちが分からないところがあります。



だから、正しい行動をするには一定程度以上の心の強さが絶対必要です。

ところで美山小では

児童会執行部の考案で、先週から登校時のハイタッチ挨拶に取り組んでいます。執行部の児童と一緒に私も参加しています。すると、こちらが手を出していても、あからさまに避けたり無視したりして通り過ぎる児童が結構います。さみしい気持ちになります。強い悪意はないと分かってはいてもです。同じ経験をしている執行部の児童も、きっとさみしい思いをしていると想像します。タッチをしない児童は、たぶんこの心の痛みを理解できていません。「大したことではない」と思っています。自分が手を出しているのに避けられる側になれば、すぐに分かるのに。そして、その状況を見ている児童もいます。でも現時点でこのことに対して異を唱える児童はいません。悲しいですが、これが今の美山小の実態です。

このことについて、我が子に親としてどんな声をかけられますか？

私たち教師には、「悪口」や「いやがらせ」などの言動をそのままにしない、いじめを見て見ぬふりをしない子を育て増やしていく営みが求められています。美山小の先生達はそのための努力を継続しています。校長室前には、「私は、人の心を傷つける言動をそのままにしません」と宣言できる児童が名前を書く掲示物もあります。本当に見て見ぬふりをしない児童は、ハイタッチ挨拶をし、しない児童に声をかけられるはずと私は思います。(次号に続く) (校長 河村 一彦)